

**ジャッジのためのガイドライン**  
**F E I 自由演技課目**

2005年5月2日より発効

**自由演技ジュニア**

以下のような運動を意図的に見せた場合、その選手は当該運動項目にて0点となり、「振り付け」及び「難度」では5点以下の得点しか与えられない。

1. 常歩でハーフ・ピルーエットを超えるもの（即ち180度を超えるもの）  
ピルーエットの最終得点は0点（その他のピルーエットが正確に行われた場合でも）
2. 連続踏歩変換（4歩毎、或いはそれ以下の連続踏歩変換）  
全ての踏歩変換の最終得点は0点（その他に単発の踏歩変換を見せた場合でも）
3. 駢歩での山形手前変換1回は認められる。しかし2回以上の方向変換を行った場合、駢歩ハーフパスの最終得点は両手前とも0点（その他に個々のハーフパスが正確に行われた場合でも）

注記：速歩での往復手前変換は認められ、その角度はライダーの任意である。

4. 常歩を一蹄跡上 - on one track で（直線上、或いは曲線上で）行わず、二蹄跡運動として明確に示しただけの場合は0点と見なされる。
5. 「腰を内へ」と「腰を外へ」は振り付けの一部として認められる。

しかしジュニア・レベルの課目に規定運動項目として盛り込まれていない運動を意図的に見せた場合、その選手は失権となる。例えば駢歩ピルーエット、ピアッフエ、パッサージュ。

## 自由演技ヤングライダー

以下のような運動を意図的に見せた場合、その選手は当該運動項目にて0点となり、「振り付け」及び「難度」では5点以下の得点しか与えられない。

1. 駢歩でハーフ・ピルーエットを超えるもの（即ち180度を超えるもの）  
ピルーエットの最終得点は0点。

注記：「反則の」ピルーエットを例えば左手前だけで見せた場合は、その他の左手前ピルーエットが正確に行われた場合でも左手前ピルーエットでは0点となる。これが右手前のみで認められた場合は右手前ピルーエットで0点となる。

駢歩ハーフ・ピルーエットで高い技術点を獲得するには、直線上から始めて直線上で終わるようにしなければならない。ハーフ・ピルーエットはハーフパスとハーフパスの間に行くこともできる。しかしハーフ・ピルーエットをハーフパスとハーフパスの間でのみ行った場合は「不十分」との採点となる。

常歩から常歩の間に行った駢歩でのハーフ・ピルーエットは「調和」と「振り付け」の項目でのみ勘案される。

2. 2歩毎の踏歩変換と歩毎の踏歩変換  
全ての踏歩変換の最終得点は0点（その他に4歩毎や3歩毎の踏歩変換を正しく行った場合でも）。

往復手前変換は認められ、その角度はライダーの任意である。

3. 常歩を一蹄跡上で（直線上、或いは曲線上で）行わず、二蹄跡運動として明確に示しただけの場合は0点と見なされる。
4. 「腰を内へ」と「腰を外へ」は振り付けの一部として認められる。

しかしヤングライダー・レベルの課目（規定運動項目）に盛り込まれていない運動を意図的に見せた場合、その選手は失権となる。例えば駢歩ピルーエット、ピアッフエ、パッサージュ。

## 自由演技インターメディエイト

以下のような運動を意図的に見せた場合、その選手は当該運動項目にて0点となり、「振り付け」及び「難度」では5点以下の得点しか与えられない。

1. 駢歩で一回転のピルーエットを超えるもの（即ち360度を超えるもの）  
ピルーエットの最終得点は0点。

注記：「反則の」ピルーエットを例えば左手前だけで見せた場合は、その他の左手前ピルーエットが正確に行われた場合でも左手前ピルーエットでは0点となる。これが右手前のみで認められた場合は右手前ピルーエットで0点となる。

駢歩ピルーエットで高い技術点を獲得するには、直線上から始めて直線上で終わるようにしなければならない。ピルーエットはハーフパスとハーフパスの間に行うこともできる。しかしピルーエットをハーフパスとハーフパスの間でのみ行った場合は「不十分」との採点となる。

常歩から常歩の間に行った駢歩ピルーエットは「調和」と「振り付け」の項目でのみ勘案される。

2. 歩毎の踏歩変換。踏歩変換の最終得点は0点（その他に3歩毎や2歩毎の踏歩変換を正しく行った場合でも）。
3. 常歩を一蹄跡上で（直線上、或いは曲線上で）行わず、二蹄跡運動として明確に示しただけの場合は0点と見なされる。
4. 「腰を内へ」と「腰を外へ」は振り付けの一部として認められる。

しかしインターメディエイト・レベルに盛り込まれていない運動を意図的に見せた場合、その選手は失権となる。例えばピアッフエ、パッサージュ。

## 自由演技グランプリ

以下のような運動を意図的に見せた場合、その選手は当該運動項目にて0点となり、「振り付け」及び「難度」では5点以下の得点しか与えられない。

1. 駢歩でダブル・ピルーエットを超えるもの（即ち、1回の連続した運動の中で360度を超えるピルーエットを2回）。ピルーエットの最終得点は0点。

注記：「反則の」ピルーエットを例えば左手前だけで見せた場合は、その他の左手前ピルーエットが正確に行われた場合でも左手前ピルーエットでは0点となる。これが右手前のみで認められた場合は右手前ピルーエットで0点となる。

駢歩ピルーエットで高い技術点を獲得するには、直線上から始めて直線上で終わるようにしなければならない。ピルーエットはハーフパスとハーフパスの間に行うこともできる。

しかしピルーエットをハーフパスとハーフパスの間でのみ行った場合は「不十分」との採点となる。常歩から常歩の間に行った駢歩ピルーエットは「調和」と「振り付け」の項目でのみ勘案される。

2. ピアッフェ。高い技術点を獲得するには、直線上で真っ直ぐに - straight 10歩以上のピアッフェを見せなければならない。ピルーエットの形でのみピアッフェを行った場合は、技術点で「不十分」となる。真っ直ぐな10歩以上のピアッフェに加えてピルーエットでのピアッフェを行った場合は通常通りの尺度で技術点が与えられる。
3. パッサージュ。高い技術点を獲得するには、一蹄跡上で（20m以上の）パッサージュを行わなければならない。ハーフパスの形でのみパッサージュを行った場合は、技術点で「不十分」となる。一蹄跡上でパッサージュに加えてハーフパスでのパッサージュを行った場合は通常通りの尺度で技術点が与えられる。
4. 常歩を一蹄跡上で（直線上、或いは曲線上で）行わず、二蹄跡運動として明確に示しただけの場合は0点と見なされる。
5. 「腰を内へ」と「腰を外へ」は振り付けの一部として認められる。

しかしグランプリ・レベルに盛り込まれていない運動を意図的に見せた場合、その選手は失権となる。例えば躍乗や後退駢歩など。